

令和元年度 福井県立金津高等学校 学校関係者評価書

協議題

- ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策、向上策が適切かどうか。
- ・その他

御意見を伺った方々

学校関係者評価委員会：あわら市教育長（本校育成会代表）、芦原中学校長、金津中学校長
地域住民代表、同窓会長、PTA会長、PTA副会長、学校長

御意見

◇学習指導・地域連携（中高一貫）

- 中高一貫教育について保護者の満足度が低下したのは、生徒の進学先に関心が高いからではないか。
- ・連携中学校と協議しながら変えられるものについては対応してきている。令和3年度入学生から、高校3年時に希望や能力に応じてクラス替えをすることで、個々の進路の実現に対応していく。
- 中高一貫教育ならではの貴重な経験ができる良さを大切にしながら、金津高校の特色として育ててほしい。
- ・土曜講座など特色ある授業をしていることをホームページ等で積極的に周知し、魅力を伝えていく。
- 大学入試制度改革への対応についてどのように取り組むのか。
- ・教員は先進的な模擬授業等で研修を積み、生徒は定期考査で大学入試共通テストに対応した長文問題や思考力問題に取り組んでいる。
- ・N I Eや朝読書で読解力を身に着け、物事に対して多元的な見方ができるように指導していく。
- ・今未来手帳とeポートフォリオシステムを次年度から全学年で活用し、計画的な学習の意識付けや学びの蓄積につなげていく。

◇生徒指導

- 「自己肯定感」を高めるにはどうしたら良いか。
- ・学校祭の内容の改革など、様々な場所でそれぞれの生徒に活躍の機会が与えられるように取り組んでいる。今後、どの生徒にも活躍の機会が与えられるように工夫をしていく。
- ・全教職員が生徒に寄り添い、褒めることで頑張ろうという気持ちになるような指導をしていく。
- ・挨拶の意味を理解して自分から挨拶のできる生徒が増えている。今後は、学校外の人にもすすんで挨拶ができるように引き続き指導していく。

◇進路指導

- 働き方改革の中で要望しにくいのが、職業観の育成やふるさと教育にも取り組んでいってほしい。
- 進路の情報が保護者に十分に伝わっていない。家庭で進路のことを話す機会が少なくなっており、保護者と子供との距離感の難しさが理由の一つとして考えられる。
- ・県模試の結果などの情報は、スマートフォンを通じて子供に伝わることを保護者にも周知し、またその情報を有効に活用していく。大学入試制度改革は保護者の関心が非常に高く、制度の変わり目なので、ここ数年の情報提供は特に重要になると考えている。

◇保健管理

- 相談室に行く生徒はどのくらいか。自分から積極的に親や先生に教育相談することは健康的であり、自立するという過程で悪いことではないと知らせてあげてほしい。

◇開かれた学校づくり

- 新しくなったホームページは生徒の笑顔が印象的で大変良い。学校の前の横断幕や広報誌などで金津高校の生徒が積極的に活動している様子を知ることによって大変勇気づけられる。
- ・学校の内容がよく伝わるようホームページの更新を増やして更なる掲載内容の充実を図っていく。
- 「先輩に聞講座」など、同窓会として今後も在校生の進路選択に役立つように協力していきたい。

◇図書指導

- 活字を読まない生徒が増えているのではないかと。そういう意味において朝読書とN I Eの効果は非常に大きいと思うので続けてほしい。

◇全体（総括）

- 学校評価書の成果と課題およびそれらを踏まえた今後の改善策、向上策は適切である。

◇学校関係者評価を踏まえた今後について

- ・今年度の学校評価の結果および学校関係者評価に基づき今後の課題について改善・工夫を行い、次年度のスクールプラン、教育方針・教育目標に活かしていく。